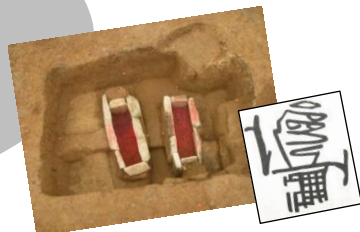


北九州市の貴重な歴史が刻まれた城野遺跡(北九州市小倉南区)を後世に残し、伝えるために

4/28 北橋市長に緊急要望！

城野遺跡を 遺跡公園へ

1800年前、邪馬台国時代の
九州最大規模の方形周溝墓のある



城野遺跡は広大な医療刑務所跡地(国有地)にあり、1800年前の弥生人の大規模集落、九州最大規模の方形周溝墓と朱塗りの幼児の石棺2基、九州2例目の玉作り工房などが発見された、学術上大変重要な遺跡です。日本最大規模の考古学研究者団体である日本考古学協会が、国県市に対し「城野遺跡の現状を保存し、史跡として整備・活用を図ること」を求める要望書を3回も提出し、昨年12月には同協会埋蔵文化財保護対策委員会の代表幹事3名が北九州市を訪れ直接要望しました。しかし、北九州市が国との交渉で土地の取得を要望しなかったため、城野遺跡の土地は2016年1月に大手建設会社が取得しました。

私たちは、大手建設会社に城野遺跡の重要性を訴え、私たちの活動を報告する一方、市に対し「城野遺跡を遺跡公園として後世に残すために、大手建設会社と土地取得のための協議を」と繰り返し要望し、市議会にも陳情しました。この間、大手建設会社は私たちの活動に理解を示し、1年以上にわたり工事を進めず、市の対応を見守って来ました。

今年3月3日の市議会本会議で、大手建設会社が北九州市に方形周溝墓部分を緑地部分に充て、無償譲渡を申し入れたことがわかりました。貴重な方形周溝墓が現地保存される見通しとなりホッとしましたが、同時に「市は買い戻す気はない。このまいつまでも待てない」と、大手建設会社は4月18日に土壌汚染ボーリング調査を開始しました。城野遺跡は、今、私たちの活動開始以来、最大の危機的状況にあります。

そこで、私たちは、城野遺跡全体を現地保存し遺跡公園として後世に残したいと願いながらも、いよいよ大手建設会社が工事再開した現実を踏まえ、苦渋の選択ですが「方形周溝墓のある道路西側部分」のみを「遺跡公園へ」と変更し要望することにしました。

4月28日に、市に対し、現地保存される方形周溝墓を生かした本格的な遺跡公園にするために、道路西側部分の買戻しと合わせ、貴重な玉作り工房の現地保存のために大手建設会社と一刻も早い協議を求める「緊急要望書」を提出するとともに、市の対応を待ち続ける時間がないことから、「城野遺跡公園(仮称)」を積極的に提案しました(裏面をご参照ください)。

また、大手建設会社には、ショッピングセンターを建設予定の道路東側は、道路を隔てた「城野遺跡公園(仮称)」と調和のとれた建物のデザインや色、配置、高さにしていただくことと共に、「ものづくりの街、北九州」の始まりの証である九州2例目の玉作り工房(H16)部分の現地保存をお願いしました。

城野遺跡は、JR城野駅南口から徒歩3分と交通の便がとてもいいところにあります。多くの方々が訪れやすく親しまれる「ショッピングセンター」と「九州最大規模の方形周溝墓のある城野遺跡公園(仮称)」、この両者が共存共栄できる地になるよう願っています。

私たちは地元住民として、専門家の方々はもちろん、行政とも協力しながら、城野遺跡が歴史と文化を大切にする北九州市のシンボルの一つとして後世に残り伝えられ、さらに研究されることを切に願っている活動を続けています。

今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



城野遺跡の現地保存をすすめる会

代表 万田守 連絡先 090-3079-6503 (永田)